

北海道教育大学附属函館中学校 副校長 黒田 論

「温故知新」

夏空がまぶしい7月のある日、附属函館小学校及び附属函館幼稚園から続く「メタセコイヤの道」を歩きながら、ふと周辺に目をやると、例年どおり多様な草花や樹木が葉や枝を広げています。過年度本校に勤務されていた理科担当の教師が「関係の方々がたくさん種類の植物を植えてくださったおかげで、令和の時代に学ぶ生徒たちに、豊かな自然の教材を提供することができ、大変感謝している」と話していたことを思い出しました。

1947年(昭和22年)に、北海道第二師範学校附属中学校として開校し、今年で77年目を迎えている本校ですが、この4月からブレザー型の新制服、新デザインのジャージ、及び男女混合名簿を導入しています。制服に用いられているチェック柄は、キンロック・アンダーソン社デザインの「世界に一つだけのオリジナルチェック」です。また、胸元のエンブレムやボタンは生徒が考案し、全校生徒の投票によって選ばれたものです。

また、老朽化が進む本校の校舎を、今年度から数年間かけて改修するという計画も動いています。まずは、令和5年度国立大学法人等施設整備事業計画<補正予算>において、北海道教育大学附属函館中学校の校舎改修に係る予算(第一期)が措置されたことを受け、現時点では、第一期工事を令和6年9月から令和7年3月に普通教室棟を中心とした改修を計画しています。

これらの動きについては、単に新しいものに切り替えていくということではなく、「温故知新」という言葉のとおり、目の前のひと株の植物に込めた先達の思い、未来に託した思いを想像したり、過去の記録を紐解いて物事の経緯を確認したりしながら、時代に合ったものに融合していくことが大切だと考えています。

昨年度、本校の卒業生で構成される同窓会(梧桐会)の方々とお話をする機会がありました。皆様からいただいた言葉に共通していることは「現在の生徒や教員を応援している。」ということでした。数々の心温まる言葉を頂戴し、この場を借りて、改めてお礼申し上げます。

本校はこれからも学校全体で一丸となって前に進んで参ります。保護者及び関係の皆様には、今後とも変わらぬご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。